

謹

賀

新



真鶴町議会議長
田中 俊一

明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、町議会を代表して、謹んで

新年の御挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年を迎えたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、私、10月の臨時議会において議長に再任させていただきました。もとより微力ではあります、町民の皆様が町政運営に参画できる環境を整えると

同時に、町民と行政のかけ橋としての役割と責任を自覚し、議長として全力で議会運営と改革に取り組んでまいります。
新たに山崎佳奈議員が議会の一員となりました。約1年ぶりに議会は10名体制となつております。私どもは、ますます多様化する社会・経済情勢の変化を的確に把握し、創意工夫を重ねていくため、それぞれの議員が町民の代表として決意を新たにし、さらに一步前へ進んだ議会改革に取り組んでまいります。

さて、令和6年は甲辰（きのえ・たつ）の年となります。「甲」は十干の最初で、物事の始まりを示すそうです。「辰」は、草木が

成長し、形が整う意味を持ちます。当町を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化・過疎地域指定と最重要課題が山積しておりますが、「甲」と「辰」が合わさる本年は、未来を明るく照らす、活力あふれる1年となりますよう、議会としても尽力してまいります。

本年も、皆様の町政への御支援と深い御理解、また、議会へのお力添えを切にお願い申しあげますとともに、皆様にとって最良の年となりますよう、心よりご祈念申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

真鶴町長 小林 伸行

真鶴の輝きを見つめる一年に

新しい一年となりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年始には新年の抱負を立てる方も多いと思

います。この抱負を立てるという行為には、

言靈の力があるように思います。

私は、福島県の鏡石町という小さな町で生まれ育ちました。私が小学生の時、この町で竹下内閣時代の「ふるさと創生一億円」をめぐつて町長の不正疑惑がありました。大人たちが憤りながら、でもどうしようもない、と

思いました。

真鶴は、小さくともキラリと光る個性を持った美しい町です。今はくすんだ原石のよ

うですが、積年のホコリや汚れを落としてよく磨けば、きっと輝きを取り戻せます。もち

ろん、硬い石を研ぐわけですから摩擦も生じ

しません。

今年も町民の皆様が健やかでお元気に活躍

されますよう心より祈念し、町役場をあげて生活応援をしていく所存です。

話すのを聞いた私は「いつか僕が町長になつて町をよくする！」と言いました。親からは笑われましたが、それは言靈となつて残つていたのかもしれません。

昨年11月、不正問題に端を発した選挙で真鶴町長として信を頂きました。生まれた町ではなかつたものの、「いつか町長になる」との少年の願いは形になりました。あとは「町をよくする」との誓いを果たさなければなりません。

今後、人口が減つている以上、予算も減つていきます。だからといって、町民生活に直結するサービスを切り下げるつもりはありません。そうなると、人口に対しあまりに過剰な公共施設に手を付けざるを得ません。今年は、具体的な施設再編に着手することになるでしょう。摩擦を抑える工夫はしていきますので、再び真鶴を誇らしい町にするため、一緒に輝く将来を見つめる一年として頂きたく存じます。

本年も町民の皆様が健やかでお元気に活躍されますが、積年のホコリや汚れを落としてよく磨けば、きっと輝きを取り戻せます。もちろん、硬い石を研ぐわけですから摩擦も生じ